



珠洲市のバイオマスメタン発酵施設が完成

5種類のバイオマスから エネルギーを回収・利用



バイオマスメタン発酵施設が建設された珠洲市浄化センター

石川県珠洲市では、年々増加する下水汚泥などの有機性廃棄物の効率的なリサイクルとそこから出る未利用エネルギーの活用を目的に、下水道機構と共同でバイオマスメタン発酵技術の研究を進めてきました。この技術は、下水汚泥に加え、市内で発生するし尿や浄化槽汚泥、農業集落排水汚泥、事業系生ごみを受け入れ、総合メタン発酵処理を行い、バイオガスとしてエネルギーを回収し、そのエネルギーによって処理残物である汚泥を肥料化するというものです。

7月25日には浄化センター内に建設が進められていたバイオマスメタン発酵施設が完成し、記念式典が行われました。現在、日量約30tのバイオマスを処理しながら順調な稼働を続けています。この取り組みは、国土交通省の新世代下水道支援事業制度リサイクル推進事業（未利用エネルギー活用型）に採択された初の案件であり、「資源のみち」を体現する新たな事業として関係者の期待を集めています。



有機物を分解するための発酵槽
(中温37℃、消化日数約20日)



発生したバイオガスを貯蔵するガスタンク



機械棟に設置されたし尿の投入口



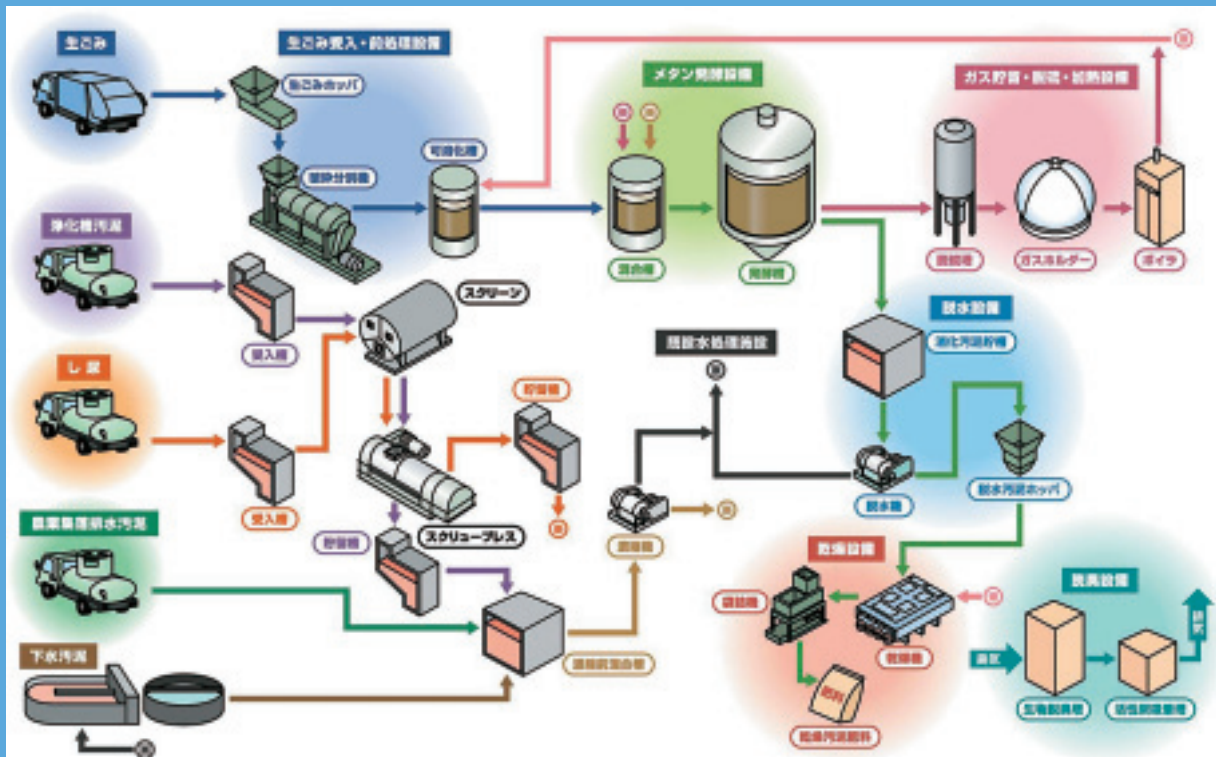
受入ホッパに投入された
事業系の生ごみ



発酵槽加温用の温水ボイラ



乾燥・造粒された汚泥。
肥料としてリサイクルされる



バイオメタン発酵施設のフロー図